

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 3 5 号	2004年6月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 6月5日（土）きららネット子どもエコクラブのビオトープで遊ぼうで子ども17名とスタッフ8名の方がビオトープへ遊びに来られました。西原、美濃和、松原会員で対応し、昆虫や魚を観察しましたが、最後には多くの子どもたちが川に入って楽しんでいました。
- 6月6日（日） この日の作業 1、田植え準備。避路（よけじ）、畦肩（アガタ）の整備 2、植栽 柳の挿し木 10本程度 3、湿地帯のアワダチソウの除去 4、駐車場の草刈り 参加者 19名の皆様お疲れ様でした。
- 6月8日（火） 宇部市文化財学習会の8名の皆様が市指定の須賀河内川源流にある夏椿を見学の途中ビオトープに寄っていただきました。
- 6月8日（火） 常盤小学校2年生95名の子どもたちが訪れてくれてにぎやかにビオトープ内を走り回ってくれました。 田村、北村、原田でご案内しました。
- 6月10日（木） 善和園の石田係長ほか指導員10名生徒14名、計25名でビオトープの草刈りをしていただきました。 田植え準備も代掻きだけと成りました。
- 6月15日（火）、18日（金）代掻き（原田宗）あがた取り、綱引き（原田賢、藤村、林弘）各会員
- 6月17日（木）宇部フロンテア大学 吉森教授ほかゼミ4名の学生さん（内2名中国山東省からの留学生）が環境授業の一環で見学。 ご案内 田村、石井、原田満各会員
- 6月19日（土） 田植え 二俣瀬子ども会25名、自然観察隊隊員19名や先生方父兄会員合わせて99名の多人数で5反歩を1時間30分で植えました。
- 6月19日（土） 里山自然観察隊の今日の観察は昆虫です。トンボ15種、蝶12種、バッタ他5種を観察しました。隊員19名、保護者14名、会員10名です。
- 6月21日（月） 田んぼの補植（原田蘭、秋吉、吉富ト）

2. 今後の予定（事務局 記）

見学者
予定なし

行事

- 6月27日（日） 地球温暖化対策ネットワーク協議会総会 今井会長出席
- 6月29日（火） 宇部地域環境パートナーシップ会議 今井会長、事務局原田出席
- 参集日 第一日曜日（7月4日）湿地帯の（看板、柵）取り付け
第三土曜日（7月17日）夏そば刈り取り、清瀬峡の整備
- 7月17日（土）里山自然観察隊（魚と水生昆虫観察）

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

ビオトープの浮葉植物

今回はビオトープの浮葉植物（水面に葉が浮かんでいる植物）をご紹介します。

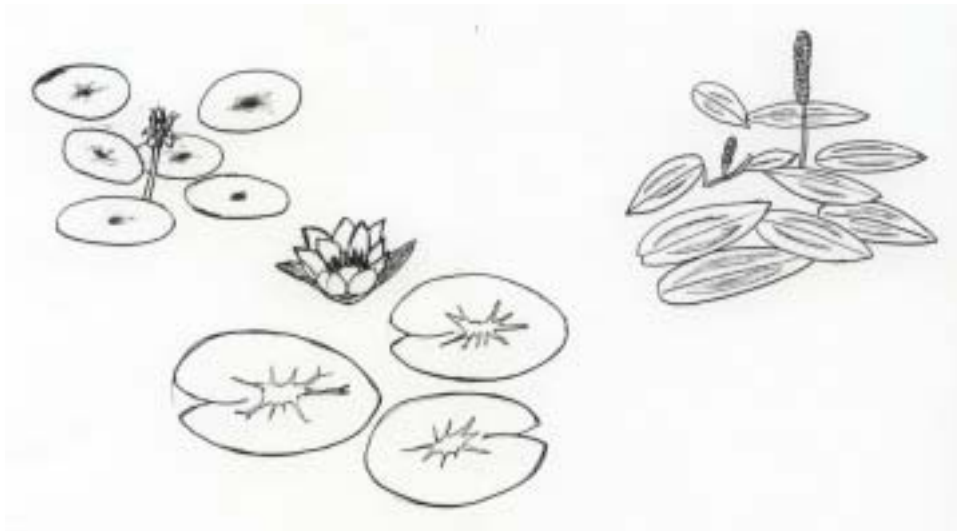
中央の池で今きれいに花を咲かせているのはヒツジグサです。ヒツジグサは日本在来のスイレンで、未（ひつじ）の刻（午後1～3時）に開花し、夕方閉じるということからついた名前です。栽培種スイレンとの区別点は、ヒツジグサ：葉がやや細長く、切れ込みの先端部分がとがっている。スイレン：ヒツジグサにくらべて全体に丸い形をしている、とのことですが、実際に区別するのはなかなか難しいようです。ヒツジグサは山間の小さなため池や湿原中の池に生育することが多く、大きな池では見ることは少ないようですが、その理由の1つは、魚にあるということです。ヒツジグサの水中葉は草食性ある

いは雑食性の魚に食べられる確率が高く、岡山県の鯉が窪湿原では、ため池に鯉が放されたが、それ以降ヒツジグサが絶えて、ジュンサイばかりになってしまったそうです。

湿地にわずかに生育しているのはジュンサイで、丸い切れ込みのない葉、葉の裏面や茎がぬるぬるしているのですぐわかります。ジュンサイの名前の由来は、中国名の蓴(チュン)が訛ってジュンになり、サイは菜で、若い芽を食用にします。よく瓶詰めジュンサイが売っていますね。古名のヌナワは沼縄が転じた名前です。万葉集にも登場するくらい、古くから利用されてきた水草です。貧栄養の酸性の池が生育に好適ということから、湿地はやや環境が合っていないのかもしれませんが。

ヒルムシロは、かつては水田の強害草でしたが、農薬の普及で消失し、現在は山間のため池などに群生が見られます。葉は沈水葉と浮水葉があり、やや形体が変わります。花は黄緑色で、多数集まって穂になります。日本名は「蛭蓆」で、浮水葉が広く、ヒルがすわって休めるとの意味です。

昨日(6月19日)、蓮田で何やら見なれないカボチャのような黄色い花を水面に突き出して咲かせている水草がありました。葉は、大きさはジュンサイと同じくらいですが、スイレンのような切れ込みがあります。帰って調べたところ、何とアサザ(ミツガシワ科)でした。この水草は全国的に見ても絶滅が心配されている植物で、環境省レッドリストでは絶滅危惧ⅠB類、山口県のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。県内では柳井市の2ヵ所のみ記録があるそうです。若干栽培され、自生との区別が不明のものもあるということですが、どうしてアサザがピオトープにあるのでしょうか。大変不思議です。



ジュンサイ(スイレン科) ヒツジグサ(スイレン科) ヒルムシロ(ヒルムシロ科)

4. ピオトープ関連 (会員の声)

初夏のピオト - プ (石井 隆 記)

梅雨のはざまにピオト - プを訪ねました。途中でまた原田蘭子さんに会いました。ラッキョの収穫中です。というのは、昨年(2019年)の10月10日、同じ場所で原田さんに出会っていたのです。稲の収穫・脱穀を終え、モミガラをラッキョの畝にかけるための準備をしている時でした。畑いっぱい赤紫のラッキョノ花が咲いていました。あれから8ヶ月たった今が収穫の時ということです。かけたモミガラのお陰で青くなったラッキョは一つもありません。白く器量の良い粒ぞろいばかりです。関係ないかもしれませんが笑顔の素敵原田さんの白い肌は器量のよい白いラッキョを食べているせいではないでしょうか。おしゃべりで仕事を中断させた上に、採り立てのラッキョのお土産をいただきました。ラッキョ漬けの前処理法も教わりました。農家では長い茎部分をちょん切り、洗濯機に入れ攪拌して洗うのだそうです。家には余分な洗濯機がないので、知人の井戸を借り薄皮を取りながら洗いました。ラッキョの皮はなかなかとれません。一時間ばかりのしゃがんだ作業で腰も痛くなり、においも体中に染み付いてしまいました。爪の間のにおいは次の日までとれません。瀬戸物のカメを探したが見つからず、プラスチ

ック容器につけました。原田さんのおかげで美味しいラッキョを一年間食べ続けられるでしょう。

ビオト - プに着くとちょっと野暮ったい感じもする黄色のコウホネと白い清楚なヒツジグサが満開でした。因みにコウホネは和名で河骨、川に生え、根茎が白骨のように見えることからつけられたそうです。ヒツジグサは羊の刻(午後 2 時)に花が開くことから名づけられたそうです。実際には開花時間は一定していないそうです。ノアザミもたくさん咲いています。葉っぱのイガイガと紅紫の凜々しい姿・色合いは里山ビオト - プ二俣瀬の美しさを象徴している植物のような気がします。

トンボたちもビオト - プの初夏を謳歌しています。キイトンボにアオモンイトンボ、コシアキトンボにショウジョウトンボと黄色に青、黒と白に赤、色とりどりが飛び交っていました。飛び方はそれぞれ異なります。今のトンボは皆元気が良いのか素手ではなかなか捕まえることができません。アオモンイトンボのツガイが何故か水草に沿い一気に水中にもぐりました。5 センチぐらいもぐったまま動きません。このまま死んでしまうのかと心配していたら 20 秒もすると何事もなかったよう上がり、飛びさりました。トンボも新婚旅行に素潜りを楽しむのでしょうか。

池の中には大中小のメダカがいます。小さいヤツは目玉のカタマリのようにも見えます。タイコウチも大小います。二匹のこどもがゆらりゆらり泳いでいました。今年は何故かミズスマシが少ないような気がします。まだ早いのでしょうか。

ビオトープの中にたたずんでいると音の世界も広がってきます。野鳥の囀りに昆虫の鳴き声、水車の水音と音の世界を楽しめます。屈んで水面下をジッと見つめていると常ならざる動きも見えてきます。生きものを育てているビオトープの懐の深さに豊かさ、光、輝き、香りが体全体につたわってきます。自然の中に包まれ気持ちがりラックスするとともに生気が蘇ってくるような気がします。

今回は渡辺昭和会員にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

5月23日(日) やっほほー!!こんにわんこそば。今日は良い天気でわん。水車が今日も一段と回っておりまするるるー。あめんぼ、めだか、も元気です。しぜんにたわむれ遊んじゃいました。 .by - おバカシスターズ

忠実に転記しました。事務局

5月23日(日)お昼に来ました。へびのことが、たくさんノートに書いてありますが、さすがに姿は見えません。かえるの音が少し聞こえました。

5月26日(水) ほたるをみにきたよ。 ふるかわだいし 5さい

6月 1日(火) 梅雨もからりと晴れ、原田さん、吉富さん(前二俣瀬婦人会長)のご案内を頂いて原田さんのとても解りやすいご説明によって大変懐かしく感謝しています。有難うございました。

6月 4日(金) 梅雨で雨が降りそうでしたが曇りでよかったです。突然原田さんにお逢いでき夏椿の場所をご案内戴き感激しました。お花は7月ころとの事ですので又参りたいと思います。皆様方のご心配感謝します。有難うございました。

6月17日(木) ゼミの見学会できました! なつかしいのやらめずらしいのやらで声が出っ放しでした。おたまじゃくしのうかしたばかりのものがいて、ちいちゃいのがいっぱいたので少し感動しました!すごい長い青大将の抜け殻があってビックリしました。又いつか機会があったら個人的に来たいです。来年はホテル見に来てもいいなあ~! F大 3年

子どもさんの絵4つとそのコメントが描いてありましたが省かせていただきます。

常盤小学校2年生のみんなの見学に対するお礼文29名分をいただきました。ありがたく会員みんなで拝見させていただきました。元気に遊んでまた喜んでいただき今後の案内時の張り合いになりました。

この中で一例のみ掲載させていただきます。

“ビオトープのおじさんへ”ときわ小学校二年三組 うえ田ふうきさん

ビオトープのおじさんなんの虫とかかが、いるか、教えてくれてありがとう。ただで教えてくれてありがとう。きいたこともない虫もいたよ

6、会よりの連絡事項

1) そばの収穫について

昨年のそば収穫時に時期が遅かったせいもあり種がたくさんあえた(“落ちた”の方言)ため初夏より花が咲き沢山の実が実っています。これを一時収穫してもよく皆様の意見をお聞きし賛同者が多ければ7月4日又は17日刈り取り収穫したいと思います。但しすずめがこれを見つけて毎日食べに来ておりますので、熟れるまで残っているか心配です。それより自然にまかせ、すずめをかわいがりますか？

2) 会員消息

原副会長 無事退院され6月19日の里山観察隊にこられました。今後たくさんの参加を期待します。
藤村会員 無事手術もせずに回復されました。田植え準備、田植えと参集されました。
吉富誠会員 6月にご母堂ご逝去でした。ご冥福をお祈りいたします。

7. 編集後記

先日、二俣瀬ビオトープの田植えが 無事 終わりました。水面に 植えられたばかりの苗が、綺麗に並んで風にそよいでいるのが 写っている景色は、何時何所で見ても本当に心地良いものです。それが、少しでも自分の手が 加わっていれば、尚更です。田んぼに入って、先ず 第一歩から長靴が抜けなくなり、手でカー杯 抜き出すと言う いつものガーデニングとは{勿論判り切った事なのでしょうが}全て、雲泥の差です。手早く3、4本苗を抜き取り、印の所に真っ直ぐ植えて、周りの土を整えて、左右の人と合わせて後退して行く。それを繰り返すと言う、単純そうに思える事が、とても難しいのを毎年繰り返し 実感します。地元の小学4、5年生の女の子達が、とても上手なのに 早乙女と言うやさしい言葉を思い出しながら、これからを頼もしくも、感じました。大変な作業だとは 分かりませんが、なるべく多くの人を経験しこの光景が、いつまでも続くように、願いました。

先日貰った「おはようアサヒ特別号」の宇部のページに里山ビオトープとして二俣瀬ビオトープの事が、出ていました。宇部の新しい お楽しみスポットとして仲間入りし、時々行ってみたい場所として定着すれば、素晴らしい事です。

これから益々、会の活性化に繋がっていく事として、エコアップのお話を聞き、どんどん質を向上させて行きたいものです。
(大村 美智子 記)